



白木蓮

加須市立不動岡小学校
学校だより 12月号
不動っ子の合言葉
「高く、広く、元気よく」

人権週間

校長 柳沢英毅

アメリカ大リーグでは、4月15日の全試合、すべての選手や監督、コーチなどが背番号42をつけて試合をします。42番はジャッキー・ロビンソンという選手が付けていた背番号であり、彼の功績をたたえるために行われているのです。

ジャッキー・ロビンソンは大リーグ初の黒人選手で、1947年から、当時のブルックリン・ドジャースでプレーし、白人以外の選手の大リーグへの道を切り開きました。人種差別があった当時のアメリカ社会において、白人だけで構成されていた大リーグで黒人がプレーすることに対してはすさまじい拒否反応がありました。観客からヤジが飛んだり、相手チームから対戦を拒否されたり、チームメイトからも「一緒にプレーするのはいやだ。」と言われたりしたそうです。しかし、ロビンソンは、そのような状況と戦いながら素晴らしいプレーを続け、次第にアメリカ社会に認められるようになりました。

12月4日から12月10日までの1週間は「人権週間」です。人権侵害や差別は、歴史的、社会的につくられたものであることが少なくありません。小学校でも同和問題やアイヌの人々への差別、女性の権利向上等の歴史、国民主権や平和主義、基本的人権等社会の仕組みについて学習します。学習を通して正しい知識を得ること(知的理解)はとても大切です。

また、本校では、人権感覚を養うために、授業中は男女関係なく「～さん」と呼ぶことにしています。人権感覚とは、人権が擁護され、実現されている状態を望ましいものと感じ、反対に、人権が侵害されている状態を許せないと感じる感覚のことです。縦割り活動や幼稚園、高齢者との交流も人権感覚育成の効果を期待するものです。

「思いやり」や「人に迷惑をかけない」など道徳的な価値観も大切ですが、人権は実社会の中で保障されていることが見えているかどうかが問題となります。自分はその権利を主張してよいのだと自覚するとともに、誰かが権利を主張したときにそれは「出る杭」ではなくその人の権利なのだとして受け止めることができるように、人権に係る知的理解と人権感覚の育成を推進していきます。



11月16日 東部・北地区音楽会で「ひまわりの約束(秦基博)」を演奏する4年生